

【学級活動での取り組み】

題材名 「そうだね ゲーム」

目標

受動的に話を聞いてもらう心地よさを体験することで、その大切さを理解する。

本時の展開

学習活動	主な発問と指示、児童の反応・行動	指導上の留意点
<p>1 本時の学習を知る。</p>	<p>日常会話を録音したものを聞かせ、よい返答と悪い返答の比較から問題点を考えさせる。</p> <p>話をしている相手に「ヘェ〜」「ほんとに？」など、返事をするを“あいづち”と言います。</p> <p>みなさんは、ほかにどんな“あいづち”を知っていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「うんうん」「なるほど」「ふん」・・・など <p>この中で、話をしている人が気持ちよくなる“あいづち”はどれでしょう？</p> <p>友だちの話聞くためには、相手の気持ちを考えて上手にあいづちを打つことが大切です。今日は、あいづちが上手に使えるようにゲームで練習します。</p>	<p>指導上の留意点</p> <p>録音テープ</p>  <p>気持ちのよくなるあいづちと、そうでないものに分けさせる。</p>
<p>「そうだね ゲーム」でききかためいじんになろう！</p>		
<p>2 「そうだねゲーム」をする。</p>	<p>初めに並んでいる2人でペアになって向かい合います。まず右側の方は、教室にあるものを指差して「これは だね」と話しかけます。すると、左側の方は指をさされた方を見て「そうだね」と答えます。ただ「そうだね」というだけでほかのことはしません。</p> <p>右側の方は、先生がストップと言うまで何でも言いので、教室にあるものを指さして「これは だね」と続けてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアで交代して進める <p>何だか教室中がにこやかになってきましたね。今度は、話を聞く人は、指をさされた方を見てうなずきながら「そうだね」と言ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアで交代して進める <p>はい、そこまでです。相手の気持ちを考えて話を聞いてあげると教室中が明るくなりましたね。たくさん</p>	 <p>急がなくてもよいが、なるべくたくさん話しかけるように伝える。</p> <p>1～2分、子どもの反応が少なくなってきたところで交代させる。</p> <p>子どもの様子や、学習室の雰囲気をついて子どもたちに返す。</p> <p>子どもたちの具体的な様子から、獲得目標となるスキルを紹介する。</p>

人達が相手の顔を見ながらうなずいていましたよ。また、さんやさんのように笑顔でうなずいている人もいました。すごいですね。



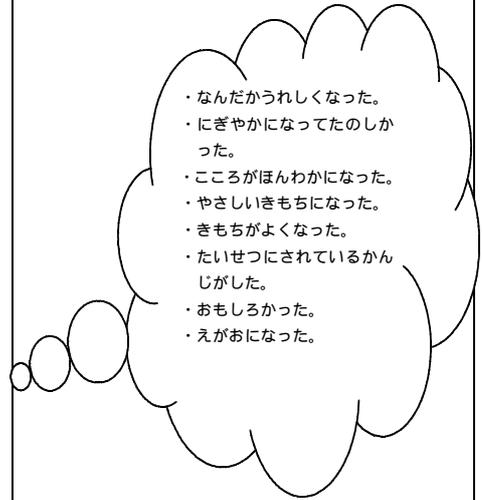
「そうだね」と言われた時、うなずきながら聞いてもらえた時、笑顔で聞いてもらえた時などの気持ちについて感想を聞く。

「そうだね」と答えてもらっている時どんな気持ちになりましたか。何人かの人に発表してもらいたいと思います。

相手の気持ちになって、あいずちを打ったり、笑顔で聞いたり、うなずきながら最後まで聞くことで教室を和やかにすることができます。友だちとお互いいい気持ちになってなかよしにもなれます。普段どんな聞き方をしているのか、注意して生活をしてみましょう。

頑張りカードに自分のめあてを書く。

「相手の目を見て聞く」「うなずきながら聞く」「笑顔で聞く」などのカードを用意しておき、感想を聞きながら黒板に貼り出す。



- ・なんだかうれしくなった。
- ・にぎやかになってたのしかった。
- ・ところがほんわかになった。
- ・やさしいきもちになった。
- ・きもちがよくなった。
- ・たいせつにされているかんじがした。
- ・おもしろかった。
- ・えがおになった。

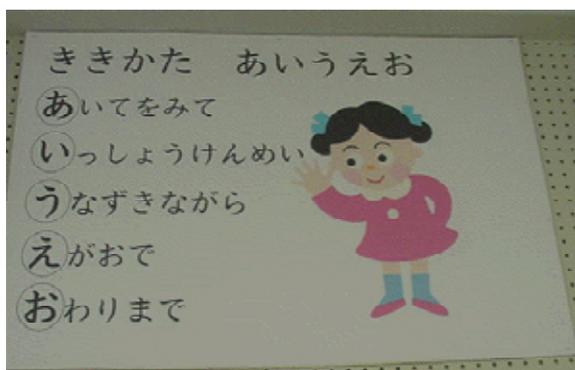
うなずいて聞いてもらう、あいずちを入れて聞いてもらう、笑顔で聞いてもらう、最後まで聞いてもらうなどの体験をした時の気持ちを振り返らせる。

日常的に学習の場や、生活の場において使っていくことを確認する。

学習室の前に掲示している「聞き方あいうえお」は、相手の気持ちを考えた話の聞き方であることを確認しみんなで読み合わせる。

頑張りカードを配布し、1週間続けて行うことを知らせる。

3 本時の活動を振り返る



聞き方名人カード

自分のめあて				
()				
月	火	水	木	金
×	×	×	×	×
(かんそう)				

頑張りカード